

琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件 沖縄関係 毒ガス 問題 第2次移送(3)

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43784

U
S
C
A
R
= 2
1.
2.
. 11
11
2

二ニース・リリース:

昭45

1970年5月7日

高等弁務官情報調査室

報告書: 57107

前集録八: 1970年5月6日、国防総省(ワシントンD.C.在)から発表された
化学兵器の撤去(沖縄からゴミサハ)に関するハンブルト
の内容である。

このハンブルトの目的は、沖縄に揚子化学生兵器を撤去する。
ハーミストンにおけるマテラ陸軍補給廠にて移動がせらる陸軍
省の計画を明らかにし、移動する至る場所を説明することである。
まず、最初に強調しておくことは、移動が困難となる場合は、これを
「撤去」命令とすることでいいし、また、連邦地方裁判所へ適用する機
会を与え、移動に際する訴訟公団は運送を請求するまでは「命令」
ハビ、ハウニヒである。安全性に重点を置いた総合的な移動計画
がすでに立てられ、各関係当局や機関間との調整も行われた。
移動計画案を許可するに当つて、メリビン・R・レード(国防長官)
は、すべての撤去作業を実施するに際して安全を最大限に維持し、
危険を最小限度にとどめよう旨示した。長、国防長官は、費用
も一つの要素ではあるが、費用のために安全性が失われたり、未だ露出
可能性能を失くすたがの措置が無、裸とされるようなコヒカガツは
アホクハシと語った。従つて、安全性を高め、一般住民に及ぼす危
険を最小限に抑えよ長がおりゆる文書が言事じりれ、直接
移動作業にたゞさかでいた前にも何ら危険はないものと予想される。

従つて、この移動能力計画は、絶対に必要な注意事項にして、安全性に
重点を置いて企画されたのである。このパンフレットでは、化学兵器
を移動させた場合や貯蔵庫や廓庫への搬入、移動時の対策方法等、
次に就いての説明や、万一の場合 必要とされる消毒前に就いての
説明等もつけ加えている。

沖縄から撤去せらる化学兵器はすべて繁殖する能力を持つ
液体の毒素化學兵器物質である。この化学剤の本質にも
かかわらず、その輸送は事前に十分な安全措置がとられるので、通常
致死性化学剤を輸送するより確かに安全である。

移動能力の主理由

1969年11月25日、ニクソン大統領は、致死性化学兵器を
最初に用いることを放棄することを、米国政府が“しばしば”行なつて
生長声明を再確認することとともに、二の放棄声明を、機能を悪化
する化学兵器にも適用すると発表した。ニクソン大統領はまた、致
死性生物剤および兵器の使用 およびその他一切の生物兵器に対する
戦闘方法を放棄することと声明した。更に大統領は、1970年2月14日、
この放棄声明を毒素にも適用すると発表した。

1969年12月25日クリスマスの声明は、国家安全保障
会議の主宰によって行われた化学防衛政策及び同言語の包括
的検討が行なわれた後に行なわれたものである。この種の検討
が行われて以降期間中、問題とされたのは、米国が化学剤で報復
能力を維持すべきかどうかということなどであった。

慎重な検討の結果、米国は自國に対する化学兵器の導入を却
止するため必要とする報復能力を維持すべきが決定された。

沖縄から輸出される化学兵器と薬剤は、国家政策にそむけ抑止力
のための重要なストックとして、ウーマテラ陸軍補給廠に貯蔵される。
米本国内から化学兵器で、日式に及ぶたために近く破壊されるこには
つくりもろいが、例えば、コロラド州デンバー在ワシントン州の
化学兵器のようく、抑止力のためのストックとして利用できまいが、沖
縄の化学兵器にとってかかるこが出来まい。

これが専門の化学兵器のストックは、沖縄には数年前から貯蔵
されていながら、これまで沖縄住民に異常に危険を与えたことだけ
がは、現在してそのような危険を与えてまい。

貯蔵場所の選定

沖縄から化学兵器を移動かするという決定に従い、米、國家
安全保障の一番として次の化学兵器を保持せねば“されば”とい
う確認が得られ、その兵器を貯蔵する場所の選定について総
務省検討と広範囲に亘る調査が行なわれた。この調査によヒ
ゲハ、オランダハーミストン近郊のユーマテラ陸軍補給廠が安全
な貯蔵場所として指定された、同補給廠が貯蔵場所に選定
された主な理由は次の通りである。

- 4
1. 有毒化学兵器の安全貯蔵は、同補給敵が"長年果して来
た機能の一である。
 2. 有毒化学兵器を取扱う専門家が、優秀で厳格な安全対策
を徹底に実施している。
 3. 同補給敵は、安全性に關し優れ長年記録を保持している。
 4. 沖縄から移された化学兵器を 安全に貯蔵するに十分な能力
を備えている。
 5. 貯蔵戸所は安全性を重んじた設計がなされてい。3。
 6. 同補給敵は、重要な人口密集地から比較的遠い場所に
ある。
 7. 同補給敵が太平洋沿岸の深海港の近くにある。

計画の準備

陸軍は、大規模な計画を立案する過程で、保健厚生文部省
と総務省が調整を行なう一方、折衝する方面から最も良い資料や知識
を求め、培训を活用した。これらの資料や知識は運輸、兵士、化學
兵器の事故防止の部門の専門家から得たものである。これら
の専門家の奮力告にもとづき、安全性を重んじる対策が、二か計画の
中につけ加えられた。この主たる対策は次のようだ。
① 輸送に当り、兵器を積んだ列車の前後、線路の安全を
確める案内列車を運行させた。

- ② 医療廃棄物や事故処理係、医薬品および器材を積んだ"列車"を後続させよ。
- (3) 列車の速度を(特別)大制限する。
- ④ 列車の復車数を最高87車に制限する。
- ⑤ 列車の総積載量を4,000トン大制限する。
- ⑥ 一列車の化学薬剤の積載量は360トン大制限する。
- ニカ計画の写いは、米公法91-121の規定に従い、検査官が保健厚生文部省に提出された。米国公衆衛生局の医務長官がこの計画の内容を検討し、以下の問題に、次の重要な处置が追加された。
1. ルートに限制する積分の結果、勧告通りルートは実行可能だが、安全で、かつ"確実"とされ。
 2. 計画の立案に開催する会議は、ワシントン州アラビアン州の公衆衛生官、警察及び鉄道関係者の間で行なわれる。
 3. 関係当局の責任の所在を明確にして、了解を得るかし及く開閉係当局の調整会議が催され。
 4. 手順と通信連絡を確認するためルートの予行演習が行われる。
 5. 地域訓練が"連絡とサポート"として行われ、すべての関係当局者が"会合を持ち、相互の問題とその解決策について話し合つた。
 6. この計画の内容について、医学、安全、保障、情報、民間防衛、輸送、通信、及び法律関係者の会合が何回も計画される。
7. 軍事や民間の専門家たちは、この計画を徹底的に検討、試験した結果、化学兵器の輸送に直接関係ない人達に重大な

危険を及ぼすような事故、または事件が起り得ることにはほとんどあり得ないと言つ結論に達した。

移動の準備

当化学兵器は、このほど、錦宮に検査され、車輪送を待つばかりにナリてある。兵器の安全な取り扱い、移動及び貯蔵のために詳細な方法や手順が書かれてゐる。当兵器の海上及び鉄道輸送は、エジカド兵器庫からの技術専門が担当することナリ。

これが護送班は、化学生物の搬去及び移動動作業の専門官、安全に關じてすぐれた自己鍛錬を残してゐる者によって構成されてゐる。同護送班は、二カ兵器庫が設立されて以来、30年間に亘りガス漏れを起こしたことナリ、未だ死傷事故を起こしたことナリ。

これで、エジカド兵器庫の護送専門班は、二の敷地内に於て作業を進めてゐる。同護送専門官は、化学生兵器を完全に検査するほか、輸送における化学兵器庫前を州間通商委員会及び連輸省の基準に合致した最も近代的で最も安全な容器に移した。

中央の管理棧橋付、陸上の車輪送面で経験を有する、能率自体は機構である。ヘンタゴンの陸軍オペレーションセンターは、○ 化学兵器が米国内外で輸送される際の期間中、専門知識の豊かな職員が一日又は時間勤務人充当。

- 同センターは、化学兵器を積んだ列車と緑色えず連絡などをとるため必要とする通信設備を備えている。通信設備の外に、

同セシナーは、輸送作業実施中、状況を表示する地図や掲示板を備えろことにより、輸送作業の進行状態に際する報告が"常時、司令センターに伝達される。

米陸軍省は、移動作業を米国外と米国外の二つの段階に分けている。沖縄から米国への初段階における移動作業の責任はハワイ在太平洋地区米陸軍司令官に委任されている。

同司令官は、化学兵器の安全積荷及び米国本土の安全な海上輸送の責任を持つ。輸送準備は、沖縄における化学兵器貯蔵地域内で行われる。この準備は該送専門班の監督のもとで、技術者によって行われられる。沖縄の地域から港までの輸送は、安全ナビゲートを通じて行われられる。安全性を確保するため、海軍作戦司令部司令官は、政府所属の船舶自体を使用することに決定した。これらの航行船舶には、絶食豊富な政府の軍隊員が乗り込む。これらの軍隊員は常時、弾薬輸送に在づるものである。最も豊富な絶食を有するものである。兵器を積んだ船が"米国西海岸の沖合 1,000 マイルカ一"（海岸より約 14哩沖合）で、米海軍駆逐艦の出迎へを受ける。駆逐艦は輸送船の前方左舷に位置を保ちながら、サンデーカ海峡へ誘導される。これと同時に、その連絡を受けた陸軍省は、化学兵器の陸上輸送に担当する隸屬係統機関に通達する。

○輸送船は、約4哩沖合から海軍のタグ"ボートで水先案内を受ける。タグボートは、破損防禦装備や救難用装備を備えている。

○海峡大通り入口で、同船団は、沿岸警備隊の護送航行に迎えられる。輸送船が"アド"運河の入り口に到着するまで、海軍の船名船番は付さない。輸送船に、万一、機械故障が生じた場合、輸送船は護送航行の統制のもとにおける。アド運河の入口まで護送は解説運送船は米海軍のタグ・ボートと交替し、同タグ・ボートはバンガードで指揮する。

輸送船が米大陸の海域に入ると同時に、化弾兵器輸送作業の責任は、太平洋地区米陸軍司令部司令官から米陸軍需資材料部司令官に引き継がれる。

この陸上車輸送による実際の指揮は、當時、米陸軍需資材料司令部が化学兵器の専任セシターであるメトロンドル在のエギヤート兵器庫の情報センターを通じて行われる。

米陸軍需資材料司令部司令官は、通常の運搬作業に限り、その責任を持つ。しかし、万一の事故が生じた場合、同司令官、カーネギナルアーミー・カマンド(米陸軍本土部隊)司令官及びその指揮下の組織戦力が運搬作業の責任を持つ。万一の事態に対処し得る司令コントロール本部が設置され、その機能がテストされた。

ボートルイスにあるオペレーションセンターは、万一の事態が生じた場合、その事態を処理し得る態勢を備えている。ボートルイス基地司令官

は、すでに丹念な予行演習を行なったが、この演習には化学兵器の移動力に長づいたる軍官民の医療関係者及び法律執行関係者が集り、諸々の状況の下で行なわれた演習の状況を総括した
計した。

安全陸上輸送に関する現在の計画によると、兵器輸送列車には案内列車と後続牽引列車を付ける。

○ 案内列車には、砂利、一車両分の消去剤及び一車両分の水が積載される。後続牽引列車には、陸軍軍医、巡回監督官、巡回医、及びコンネンタルアーバーカマンドが、《遭する医療列車、及び巡回医》の事故対策班のメンバーが乗り込む。○ 兵器輸送列車は最高マイル車に限り、速度を時速35哩以下に制限される。○ 陸上輸送ルートは、出来ぞが人口密集地域を避ける。全輸送経路を通じ、安全策が講ぜられる。

ワシントンヒオレゴン両州には、州及び地方の各機関との調整をはかる中央連絡機関が設けられている。ワシントン州では、州軍需局の下にくる(MSCA) 民衆当局への軍支援機関が中央調整連絡機関の役割を果す。オレゴン州では、緊急業務局長及びMSCAが同じ役割を果す。

移動作業中の医療計画は、陸軍が全面的を支持し、非軍事機関による直接の支援は計画されてない。しかし、万一事故が発生した場合、事故発生地域内のすべての管轄機関が同事故の処理に当る。

化学薬剤の種類と性質

かくし化学薬剤：これは油状の刺激性のある火傷化學剤である。水よりも蒸気度が緩慢である。同化学薬剤は吸收入してから普通4時間乃至6時間後その影響が現われる。それは、じんじくの様な臭いを出す。

神経性化學薬剤GB：これは無臭、無色で、作用の早い液体で、主に呼吸器を通過して作用する。挿入、呑咽は、蒸氣の吸入持続性がなく、直ぐに蒸発する。液体としての同化学薬剤は水と同じ割合の速さで蒸発する。

神經性化學薬剤VX：これは持続性がある作用緩慢な液体である。水と同じ位の重さで、機械的抵抗力と同程度の濃度を持つ。また、絶縁性の時は無臭、無色である。毒素が消耗されると、同化学薬剤は何の危険性もない。除却剤は、移動作業のあらゆる段階に備えられる。

除却剤は移動作業のあらゆる段階に備えられる

安全性を見点からして、除却剤はすべての化学兵器輸送作業の一環にして考慮される。万一事故が発生したとき、化學薬剤とそれを悪毒化するために送達された薬剤は下記の通り。

1. GB：(1)炭酸ナトリウム(苛性ソーダ)一又はアルカリ液として知られている。
- (2)水素ナトリウム(苛性ソーダ)一又はアルカリ液として知られている。
2. VX：(3)油溶性の低い次亜塩素酸鉄塩 即ち、HTH、又はカルガリ次亜塩素酸鉄塩として知られる。
3. 緊急化學薬剤：ジメチルアミン(DS-2)はあらゆる化學薬剤に対する効果あり。

（後）

（前）

ニュース・リリース

(注) ○：原水協等行犯兵層に封するメモ
と同一の事項

1970年5月7日

高等弁務官情報調査室

題名：57107

編集番号：1970年5月6日 国防総省(ワシントンD.C在)から発表された
大化学兵器の撤去(沖縄グラオレゴン州)に関するパンフレット
の内容である。(関係事項抜粋)

① 輸送に当て、兵器を積んだ列車の前に、線路の安全を
確保する案内列車を運行せよ。

② 医療隊係者や事故処理係、医薬品および器材を積んだ列車
を後続せよ。

③ 列車の速度を特別に制限せよ。

④ 列車の貨車数を最高87車に制限せよ。

⑤ 列車の総積載量を1,000トンに制限せよ。

⑥ 一列車の化学薬剤の積載量は360トンに制限せよ。

○ 化学兵器が米国内で輸送され一方期間中、専門知識の豊かな
職員が1日24時間勤務に当る。

○ 同センターは、化学兵器を積んだ列車と急急を連絡をとろ
るために必要とする通信設備を備えている。

○ 輸送船は、約74哩沖合から海軍のイグボートで水先案内
を受ける。タグボートには、破損防禦装備や救難用装備を
備えている。

○ 海峡を通りながら、同船同行の沿岸警備隊の護送船
に迎えられる。輸送船がストレートの入口に到着するまで、海軍
の船員自け付を3000人以上いる。輸送船は、万一、本機械の
故障が生じた場合、輸送船は護送船の統制のもとにおかれよ。
ストレートの入口まで護送した駆逐艦は米海軍のタグボートと
交替し、同タグボートはバンガードで護衛する。

○ 案内列車には、砂利、一車両分の消去剤及び一車両分の水が
積載される。後続列車には、陸軍軍医總監が派遣する医療
隊、及びコンテナカルアードー・カマンドが派遣する事故対策班のメンバー
が乗り込む。○ 兵器輸送列車は最高97車に限られ、速度も時速35
哩以下に制限されてい。○ 陸上輸送ルートは、出来るだけ人口密集
地域を避ける。全輸送経路を通じ、安全策が講ぜられる。